

20 説教批評参加報告

日本ナザレン教団小倉教会牧師 渡邊 洋子

牧師：5か月 説教塾：3年（神学生時代含む）セミナー参加：3回（前同）

説教批判に参加して

説教塾の説教セミナーの醍醐味は、説教批判の時間にある・・・と私は思います。優れた説教者が集まった説教塾で、その議論を聞いているだけでも勉強になります。特に加藤常昭先生のコメントは秀逸で、驚きに満ちています。これを聞き逃すのは、あまりに勿体ないです。今回はこんな事がありました。「自分の教会が新来会者に対して心を開く事が少ない」という事を説教の中で具体的にのべる時、説教者は「先輩の牧師に聞いた事」として説教の中で語りました。説教批評の中で「先輩の牧師が話していた」と言うと会衆は“牧師同士って教会員の愚痴を言い合うのか”と思わないか、直接、教会員に指摘した方がいいのではないか」という指摘に対し「説教壇の上から指摘したら、言い訳できないのだから教会員はつらい」という反論がでて結論が出ませんでした。加藤先生はこの件について、「少数派はどうしても変化に対して心を閉ざしがちになる。実はファリサイ派もそうだった。日本のプロテスタント教会にも似たような傾向があるのではないか？」と提案し、一般化する事でよりきちんと会衆の現実と聖書テキストのテーマとを繋げてくださいました。豊かな経験と学識に基づいた鮮やかな手法を目にする事ができました。

他にも説教批評の魅力の一つとして沢山の説教が聞ける事が挙げられます。説教を始める前に、説教者が自分の仕える教会の説明をします。時に、教会が苦悩に満ち、刺すような痛みを抱えつつも語らざるを得ない説教者もいます。教会の背景を知って説教に耳を傾ける時、生きた教会の息遣いとそこで奉仕する説教者の主イエスへの思いを感じ、大きな慰めと励ましを新米伝道師である私は受け取る事ができました。議論の中で、自分の愛の少なさや不勉強を痛感させられ落ち込む事もあります。しかし、だからこそ悔い改めて臨む事のできるセミナー、キリスト者として説教者として成長できるセミナーです。説教塾の説教セミナーは、説教作成のノウハウや神学的知識は勿論ですが、説教者としての精神を学ぶ事のできる稀有な場所に思えます。